

Project	地域協働専攻 地域政策グループ	
	<b>子どものことを考えた地域を作る</b> ～チャイルド・ファーストな地域作り～	
メンバー	[学 生]	庵原文 齋藤海里 田辺谷日菜 小野寺七海 渡邊祥人 澤田美知 佐藤璃保 小山内杏雛 山本琉以 岩山由那 向田華凜
	[担当教員]	中村直樹

**【背景】**

貧困、虐待、学校不適応、非行といった危機的な状況に置かれた子どもたちの中には、前進している(自分が成長している)感覚や明るい将来像を描くことが難しい子どもたちもいる、という現状がある。子どもたちが色々な人と出会い、様々なことに挑戦して経験することが、自分の成長の実感や明るい未来像につながるのではないかと考えた。

→子どもたちが人と出会い、挑戦・経験を通して、将来の可能性を広げられる地域が必要。

**【目的】**

地域の人たちが、様々な環境に置かれた子どもたちのことを理解しつつ、子どもたちひとりひとりが大切、という意識の共有をする。

**【概要】**

今回の地域プロジェクトでは、病院での活動と学童の子どもたちと交流する2つのグループに分かれて活動した。病院のグループでは中央病院の子育て支援室と連携し、病院にいる子どもたちの現状を学び、掲示を行うなどした。学童の子どもたちと交流するグループでは、学童保育所ひだまりクラブさんに通う子どもたちを大学に招き、キャンパス内を探索、クイズ、ミニ運動会などを実施し、子どもたちと交流した。

**【プロセスと成果】**

前期は、課題発見と学童保育所ひだまりクラブさん・函館中央病院への訪問を行った。課題発見では、子どもたちに関する問題をグループで探求していく中で「遊び方の変化」、「読書数の減少」、「子どもたちの病院での過ごし方」が挙げられた。活動に当たっては、「遊びと本」、「子どもと病院」のテーマのもと、2つのグループに分かれて該当施設への訪問や後期にむけての計画などを行った。

そこで、後期は、課題解決に繋がるような取り組みを計画・実行した。「遊びと本」では、ひだまりクラブさんへの訪問の際に「大学に行って大学生と関わりながら活動したい」という声があったため、大学の中でできる活動を計画した。具体的な活動内容は、学校の中に本に関するクイズを張り探検しながらゴールを目指すゲームと、プロジェクトメンバーも混ぜたミニ運動会を行った。学校探検では本についての知識を深め興味を持ってもらうことができた。ミニ運動会では大学生と子どもたちが沢山交流することができた。また、運動神経に関わらず夢中になれる競技を企画し、子どもたち皆に楽しんでもらうことができた。「子どもと病院」では函館中央病院の職員の方との企画会議、「あそっか」の子どもとの交流、子どもと接する際の注意点などを学ぶケアプログラムを受講した。また、病院内に「あそっか」の活動を紹介する掲示をして、多くの方にいただくこともできた。

**【ミニ運動会の様子】**



**【「あそっか」の活動を紹介する掲示物】**



## 【総括と反省・今後の課題】

前期は、各施設で実際に交流したことを通して、新たに浮かんだ問題や課題をグループ内で共有し、後期にむけてどういう活動を行えば課題の解決に近づけるかということを計画することができた。

後期はそれを元に企画を行い、テーマである「本と遊び」、「子どもと病院」のそれぞれの課題解決につながる活動を行うことができた。ただ、企画を行うまでの過程で計画が途中で変更してしまったり、共有が行き届いてないという問題があった。また、施設との連絡共有が少なかったことも反省としてあげられた。

活動を通して、背景にある「子どもたちが人と出会い、挑戦・経験を通して将来の可能性を広げられる地域」というものに近づくことができた。また、病院に掲示したポスターにより、多くの人に子どもについてや「あそっか」のような活動が実際にあるということを知ってもらえることができた。子どもたちだけでなく、我々子どもに関する問題に目を向けて、実際に起こり得ることについて考えられた。

今後の課題として、病院と行なってきたポスター活動のように周知活動を行ない、子どものことをより考えるため、地域の方々への意識共有をしていく必要がある。また、子どもの将来の可能性を広げるための活動をさらに増やし、子どもがのびのびとできる環境づくりをしていくことも課題としてあげられる。今回行った活動は、我々が現在の子どものことについて交流を通して学び、問題や課題解決に近づいたための前進であるため、さらに地域の大人との交流で子どもの問題について触れてもらう機会を設けることや、地域の大人と問題に適応した環境づくりを行なっていくなどの活動が必要になると考える。

### 【地域からの評価】

病院に掲示したポスターを通して、「あそっか」や子どもについて多くの人に知ってもらうことができた。

学校探検、ミニ運動会を通して本についての知識や興味を深めてもらえて、楽しんでもらえることができた。

### 【その他】

年間スケジュール(例)

#### ■前期

- ・ 4月～6月: 連携先への訪問とデスカッションを通しての地域課題の特定(地域における子どもたちにかかわる課題の特定)。
- ・ 6月～7月: 地域課題(地域における子どもたちにかかわる課題)の解決のためのアイデア・企画

#### ■後期

- ・ 10月～11月: アイデア・企画の実施に向けた連携先との打ち合わせを重ねる。
- ・ 12月: 企画実施のための準備。
- ・ 1月: 企画の実施と振り返り。